

「平和憲法を守る会」

ニュースNo157 2023. 7. 11 発行

かながわ

平和憲法を守る会

神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

かながわ県民活動サポートセンター内238

TEL 090-1105-6980

FAX 042-797-7486

郵便振替 00250-3-85449

平和憲法を守る会

第27回かながわ平和憲法を守る会総会

5月8日、かながわ県民センターで本会の第27回総会、第86回平和憲法を守る神奈川県民集会を開催した。総会では、事務局長の瀬川から22年度の活動と決算を報告、また、23年度の役員と活動計画を提案し、共に拍手で承認された。総会後には、本会代表委員の呉東正彦弁護士が、「どこにも基地はいらない～米軍基地の増強・強化にどう抗するか!」と題して、記念講演した。呉東さんは、神奈川の基地の現状を横須賀基地を中心に問題を提起した。米空母母港50年、海外で唯一の原子力空母の母港、2024年Gワシントンへ交代。日米合意違反の原子炉の修理、放射性廃棄物搬出、試験航海中の原子炉テスト訓練が行われていることや排水処理施設周辺のPFPSの深刻な汚染問題、イージス艦乗組員による逗子海岸連続通り魔事件、横浜港内ノースドックへの陸軍小型揚陸艇部隊の配備、相模補給廠のミサイル司令部 米国のミサイル防衛のための部隊、厚木基地へのオスプレイの飛来と、海上自衛隊のP1等の利用強化、キャンプ座間の陸軍第一軍団前方司令部も特定秘密保護法など基地の増強強化の具体的な問題を指摘した。米軍基地強化に、どう抵抗するために、戦争、被災の危険が現実化しつつあることを市民にしっかり伝えること、様々な市民団体による重層的な運動として女性や若者の参加する運動を作ること、わが町を愛するアンデんティティとつなげること、自治体と議会に働きかけ、住民と自治体が一体となった運動を作ること、思いやり予算を削減させ、物価高の中での軍事費増税を許さない運動が必要だとまとめた。



第27回かながわ反戦ツアー

横浜港を前線基地・出撃基地化させるな!「横浜ノースドックを視る」

日時 9月23日(土) 10時半 さくらリビング

2023年度活動計画

1. 日本国憲法の戦争放棄・国民主権・基本的人権を守り、活かし、広める。新型コロナウイルス対策に便乗した緊急事態条項の創設など憲法改悪を阻止するため、憲法審査会の開催を許さず、改憲手続法については廃止を展望しつつ、当面は有料広告の規制や最低投票率の導入など抜本的な見直しを求める。「九条の会」に結集するとともに、憲法違反の自衛隊反対、集団的自衛権行使容認反対、戦争法廃止に向け、戦争はいらない1000人委員会・戦争法違憲訴訟、改憲発議に反対する全国緊急署名などに取り組む。
2. 「不戦の誓いの集い」を継続し、侵略戦争の実相を伝え、継承する。
3. 天皇制に反対し、「『紀元節』復活＝『建国記念の日』反対集会」を継続し、「日の丸・君が代・元号」の強制、「昭和の日」反対を含め、天皇制・「皇民」化教育の実体を明白なものとする。
4. 「改悪教育基本法」に反対し、反戦・平和・反差別の教育創造に向けて取り組む。歴史を歪曲する「新しい歴史教科書をつくる会」編集の育鵬社・自由社版教科書の採択に反対し、採択阻止に向けての学習・情宣・反対行動に取り組む。また、教育委員会制度の改悪や「道徳」の教科化など、教育の反動化に反対する。
5. 「特定秘密保護法」や「共謀罪」の廃止に向けて県内外の行動に積極的に取り組むとともに、「重要土地調査規制法」「デジタル監視法案」「経済安保法案」など一連の反動諸法に反対し、集会・言論の自由、民主主義を守る行動に取り組む。
6. 民族差別撤廃や外国籍労働者の人権保障・部落差別等の課題に引き続き取り組む。また、福祉・環境などでの憲法を活かす取り組みも検討する。
7. 反戦ツアーを継続し、県内外の基地・演習強化や人権保障などを追究するものとして取り組む。
8. 県レベルでの取り組みの他、各地域においても「守る会」発足をさらに進め、地域課題などを含め地域住民とともに独自の活動を推進する。
9. 米軍基地再編・基地機能強化反対、「有事法制」反対・実体化阻止、日米韓軍事協力の展開の阻止、「敵基地攻撃兵器」の購入と開発、南西諸島、馬毛島への自衛隊基地建設の中止のため、地域に立脚した基地・演習被害の摘発、軍事活動の住民に及ぼす危険性の告発など、夜間軍事飛行差し止めなど第五次厚木基地爆音訴訟、CBRN対応訓練反対、米軍揚陸艇部隊の横浜ノースドックほの配備撤回、保土ヶ谷の自衛隊駐屯地要塞化反対、米軍基地によるPFAS汚染問題など共同行動も含め、学習・情宣・反対行動に取り組む。基地撤去に向け、沖縄など各地の反対運動と連帯して取り組む。



10. 脱原発の社会に向け取り組む。東海第二原発差し止め訴訟、福島原発神奈川訴訟を支援し、県内外の反対運動と連帯して取り組む。
11. 現在「守る会」が加盟や共同行動している県内の「県民のいのちとくらしを守る共同行動委員会」、「かながわ憲法フォーラム」、「かながわ歴史教育を考える市民の会」、「基地撤去をめざす県央共闘会議」などの組織や中央の「憲法を生かす会」、憲法を生かす会関東連絡会、などとの協力関係を強化していく。また、「厚木基地爆音防止期成同盟」や「第五次厚木基地爆音訴訟原告団」「原子力空母はいらない横須賀母港化問題を考える会」、「日朝国交正常化を進める神奈川県民の会」、「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」、「関生弾圧を考える会」、「記憶の継承を進める神奈川の会」など県内の運動団体との協力関係に努める。

2023年度役員

代表委員 吳東正彦 大波修二 副代表委員 山城恵子
 事務局長 瀬川 均(海老名) 事務局次長 吉田 明(横浜)・杉山隆次(横浜)
 幹事 山田 勇(横浜)・小川良則(横浜)・影山武房(横須賀)
 関野和義(湘南)・湯原清隆(相模原)

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

憲法審査会2023年

【改憲を煽る維新と国民民主】



第211通常国会は安保3文書を具現化する軍拡増税諸法案や健康保険証廃止法案、難民強制送還法案、原発無期限稼働法案など史上最悪の悪法粗製乱造国会となったが、憲法審査会も改憲に向けて暴走する極めて乱暴な議論や議事運営が常態化した。

特徴的な発言を一つ挙げるとすれば、来年9月までの総裁任期中の改憲を公言する岸田総理の談話を受けて「総理自ら期限を切って決意を示したのだから、そこから逆算して来年の通常国会での改憲発議を見据えたロードマップを示すべきだ」というものがある。そして、これは自民党ではなく維新からの発言なのである。今年最初の3月2日の衆院憲法審査会での小野泰輔を皮切りに、衆参15回（うち3回は参考人質疑）のうち8回にわたって改憲を煽り立ててきた。憲法審査会の「与党」懇談会に維新とそろって出席している国民民主党の玉木雄一郎代表に至っては「閉会中審査も念頭に置いて」と、一気呵成に畳みかけようとしている。

今通常国会の憲法審査会でも自民党の改憲4項目（自衛隊明記・緊急事態条項・教育無償化・合区解消）を念頭に置きながらの議論となった。とりわけ議論が集中したのが緊急事態条項であるが、改憲勢力内でも温度差のある緊急政令はとりあえず脇に置き、非常時における議員の任期延長問題に絞っての合意形成が目論まれた。もちろん、選挙が実施できないほどの緊急事態の認定要件を特別多数とするか否か、議会の議決だけでなく司法の関与を要するか否かで意見の違いはあるものの、維新

も国民民主も「議論は出尽くしており、論点整理の上、集約すべきだ」とまで述べている。

【緊急事態条項を巡る論議の杜撰さ】

しかし、取りまとめを急ぐ割には、議論の内容は極めてお粗末なものである。まず、この問題を考えるにあたっては、真珠湾直前の1941年の選挙が「挙国一致」を理由に1年延期されながら、既に本土空襲も始まっていた1942年の選挙は予定どおり実施されたという歴史的事実や、参政権は主権在民を具現化するものであり最大限尊重しなければならないという根本原理を踏まえておく必要がある。また、制憲議会における金森答弁にもあるように、緊急時にあっても内閣の専断を避け、議会が機能するように参議院の緊急集会の制度が置かれていることも重要なポイントである。

しかし、実際の議論は「直下型地震で議事堂が潰れたらどうする」（赤池誠章・自民、猪瀬直樹・維新ほか）とか「緊急集会は首班指名ができないのに総理をはじめ閣僚の多くが遭難したらどうする」（山下貴司・自民）とか「緊急事態が5年続くと衆参ともに誰もいなくなる」（柴山昌彦・自民）といった極論ばかりが飛び交っている。

また、「危機の克服と人権の保障は相反する課題であり、万一の場合には一時的であれ立憲的な秩序を停止せざるを得ない」（北神圭朗・有志の会）といった開き直りとも言える発言も目立った。



【9条2項削除論まで飛び出す】

こうした拙速かつ乱暴に議論を急ぐ最大の要因が安保3文書であることは疑いない。3月2日の衆院憲法審査会で維新の小野泰輔が「安保3文書は改憲なしには成り立たない」と述べたのをはじめ、「国防規定を設け独立国としての法体系を完成すべきだ」（新藤義孝・自民）とか「憲法に自衛隊を明記することで国際社会から信頼される」（柴山昌彦・自民）といった発言が続いている。

そして、安保3文書と「専守防衛」との関係について「専守防衛とは政治用語であって軍事用語ではない」（石破茂元防衛相）とか「時々の情勢に応じて必要最小限度の中身も変化する」（岩谷良平・維新）あるいは「反撃能力とは政策的概念であって法制的概念ではない」（濱地雅一・公明）といった「言葉遊び」が続く。

その極め付きが玉木雄一郎（国民）の9条2項削除論である。彼はこう言う。「憲法に自衛隊を追記しても、組織としての自衛隊の違憲論は解消するものの、自衛隊の行為がどこまで合憲で、どこから違憲かの議論は残ってしまうから、9条2項は削除すべきだ」と。いくら基幹労連や電力総連が最大スポンサーだからといって、兵器産業育成法案や原発無期限稼働法案に賛成した挙句、9条改憲の旗振り役を務めるとは、落ちぶれるにも程がある。玉木自身、香川2区の野党統一候補として安保法制の廃止と立憲秩序の回復を公約して議場に送り出されていることを忘れてしまったのであろうか。

【改めて岸田内閣に対峙しよう】

党大会の前日に改憲対話集会を開いたり、5月3日付の産経紙上で改憲への意欲を示した岸田自民党ではあるが、5月1日の共同通信の世論調査では「改憲機運は高まっていない」が7割にのぼっており、ウクライナに便乗して台湾海峡の危機を煽っても、増税してまでの軍拡には否定的な声が増えている。それでも、通常国会閉会にあたっての総理談話では、相変わらず総裁任期中の改憲に意欲（と言うか執念）を示している。

しかし、思い起こしてみよう。安倍元総理も東京五輪を新し憲法の下でと言い続けた挙句、世論の反発の前に頓挫し、結局は病氣と称して政権を投げ出してしまい、その辞任改憲で「世論が盛り上がらなかった」と認めざるを得なかった。サミットの「外交成果」で一時は回復傾向にあった内閣支持率も、総理秘書官による公邸での忘年会やマイナンバーカードの問題噴出で再び急落に転じている。秋に向けての政局は解散含みで推移することは確かである。市民と野党の共闘の再構築を急ぎ、戦後民主主義の解体を阻止するべく奮闘しよう。

小川良則(幹事・憲法9条を壊すな！実行委員会)

各地の市民運動から(紹介)

【労働大学神奈川春季講座】

5/11、労働大学神奈川が主催する春季講座を神奈川県地域労働文化会館にて開催された。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され初の制限なしの学習会ということもあり、会場には全体で約50名の多くの参加者が集まった。

今回は『新しい戦前 世界・日本・そして神奈川』と題して、神奈川平和運動センター副代表であり、4月まで相模原市議を務めていらした金子豊貴男さんが、米軍と自衛隊の一体化が進む神奈川の基地問題をテーマに講演した。

金子さんは「最近では北朝鮮からのミサイルによるJアラートがメディアでも多く取り上げられているが、あれは日本政府が過剰に危機感を煽っているようにしか思えない。なぜなら、Jアラートが鳴った日も米軍基地の入口にある毎日更新される警戒体制のランクを示す“FPCON”は平常の【A】を出していた。自衛隊と一体化を進め、情報収集能力も日本より優れている米軍が危険ではないと判断しているのが、その証拠だと、これまで金子さん自身が基地問題への活動の中で撮影してきた多くの写真を中心に解説を入れながら講演をしてくれた。

「そもそも日本が防衛費を増額して米軍から爆買いしようとしているトマホークミサイルなどの兵器は、軍事大国アメリカの型落ちの在庫整理のためのものが大半だ。横田基地・厚木基地・キャンプ座間・横須賀基地・ノースドックなど、神奈川県内・近郊の基地の日米一体化の動きがコロナ禍の裏でさらに活発化してきている。



世界はこれまでも兵器の在庫が多くなると戦争を繰り返してきた。新たな戦前と言われる時代、日本のこれ以上の軍拡を許してはならない」。金子さんの訴えを通じて、現在の日本、とりわけ私たちが暮らす神奈川における基地問題を改めて考える良い機会となった学習会でした。《F》

【「新しい戦前にさせない」シンポ 第3回】

5月23日「新しい戦前にさせない」連続シンポジウム(3回目)が、衆院議員会館で開かれた。大会議室はあっというまに満杯になり、16時の開始から3時間近く熱気に包まれた。テーマは「統一教会と自民党が呼び込む戦争」で主催は共同テーブル(佐高信代表)。豪華ゲストが勢揃いして、歌・講談・シンポジウムは、いやがおうでも盛り上がった。



「文化のチカラ」を実感したのは、中川五郎さんのフォークと神田香織さんの講談。中川さんは新曲をいくつも披露したが、今の日本の「差別・冤罪・不正」の実態が、物語風の歌詞から痛烈に迫ってきた。神田さんは、「はだしのゲン」のダイジェスト版を演じた。会場の照明が落とされ、爆発の音響効果もあり、大会議室が一瞬にしてヒロシマの惨劇の場になった。「戦争をしてはならない」という思いが染みこんでくる講談だった。

続いて行われたシンポジウム。パネリストは、有田芳生・平野貞夫元参議院議員・前川喜平の各氏。佐高信さんの巧みな司会進行で、パネリストの普段聞けない話を引き出した。

「今回の自治体選挙で統一教会関係の議員は260人立候補したが、9割の206人が当選している。自民と教会の癒着は変わっていない。このままでは大変なことになる」。教育など基本政策で一致しているという自民党右派(安倍派)と統一教会。前川さんは、その価値観をこう指摘した。「両者とも教育を重視しており、家父長制を実現したいと考えている。つまり権威に従順な人間を育てることだ。家庭では父親に従い、国では権力者に従う人間である。これは怖いことだ。上の命令一下で戦争ができるようになる。プーチンをみればわかるでしょう。それがいま進行している」。

有田芳生さんは、「メディアも国会もすっかり統一教会問題を取り上げなくなった。しかし本質の問題はなんにも変わっていない」と強調する。さまざまな嫌がらせに負けずに取材してきた有田さん。公安情報も詳しくシンポジウムでは生々しい話の連続だった。「統一教会は反共謀略組織であり、過去に空気散弾銃2500丁を輸入している。朝日襲撃の赤報隊事件では、その軍事組織の関与が疑われ警察も追っていた。しかしあるとき、捜査がピタッと止まってしまった。私は公安を退職した警察幹部にそのことを聞いたことがある。かれは“政治の力があつた”と認めた。これが現実です」。「また政界工作も激しい。私は韓国で内部資料を入手した。それによれば“PRチーム”という女性だけの工作グループが議員対策をずっと続けてきた。その対策費は月1億円もある。国会議員に金が流れていた疑いが消えない」。

自民党右派と統一教会が政権の中枢を牛耳る構図がしっかり見えてきた。そしてこの勢力が改憲と戦争政策をすすめている。有田さんは最後にこう述べた。「私はこういう社会運動を高校生のときからやってきた。しかしこの年になって、こんな日本になるとは思わなかった。いまはこのままでは死ねないぞ、という思いだ。い

ま関わらないことは恥だ。一緒に頑張りましょう」と。聴衆から大きな共感の拍手が起きた。

この日の参加者は300人で、ライブ視聴は1000人だった。その後アーカイブが伸び、翌朝にはすでに4000を超えている。「新しい戦前にさせない」運動は確実に広がりを見せている。<https://www.youtube.com/live/Zhsp4EA2uIk?feature=share> 《S》

【止めよう！琉球弧の戦場化 5.25横浜集会】

5月25日、止めよう！琉球弧の戦場化 5.25横浜集会在山城博治さんを迎えて島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会の主催・神奈川平和運動センター/基地撤去をめざす県央共闘会議の協賛でかながわ県民センターホールにて開催された。

山城さんは「台湾有事」問題に対して、日本有事というが、沖縄に攻めてくるという根拠は？と疑問を呈し、古来沖縄と中国は親交があった、それに対してミサイルを持ち込んでいる。沖縄での肌感覚での恐怖、東京では感じられないと本土との温度差を指摘、5月21日北谷で2000人を集めて開催された平和集会に触れ、若者たちが提起した新しいスローガンを取り入れた事を報告、「争うよりも愛しなさい」「ミサイルよりもおむすびを」など斬新とも言えるスローガンに戸惑ったことや反対意見もあった中、島々を再び戦場にしないでという切実な思いで、政治信条にかかわらず「戦争だけはさせない」「戦争反対」だけで充分ということでもとまり、多くの人々を結集できたと報告、地元新聞での特集や「新しい風」と評する社説も紹介、平和運動の新たな取り組みとして学ぶべきところの多い講演であった。《杉山》



【福島原発かながわ訴訟第19回控訴審】

福島原発かながわ訴訟第19回控訴審は、6月30日東京高裁で行われた。定員79席で104人が参加、抽選、傍聴席を満席にすることができた。8月結審前の公判と目されていたが、国側から「反論したいことがある」という要請があつての1か月延期となった。次回は8月25日。その後、裁判の報告集会があった。最高裁判決を盾にして原告側の主張を一蹴出来ないほど、国と高裁が追い詰められている、とみることもできそう。《K》



【記憶の継承を進める神奈川の会 プレ企画上映会】

7/2、8/26から始まる第8回知ることで未来が見える「戦争の加害パネル展」のプレ企画として呉充功監督の「隠された爪痕」「払い下げられた朝鮮人」の映画上映会が開催された。参加者は73人、呉監督のトークも行われた。「日本人は時代の空気に流されやすいと思い、自分で考え、行動することの大切さを痛感します」「関東大震災時の朝鮮人虐殺について、まだまだ知らないことがあることを痛感しました。そして現代の日本社会で、この問題を再認識して深く掘り下げることが必要だと感じました。監督のお話を聞き、自分も勉強をし直してみようと思いました」「貴重な証言活動に感銘を受けました。歴史修正主義（否定主義）の根深さを感じます」「関東大震災時の朝鮮人虐殺は知っているつもりでしたが、特に「払

い下げられた朝鮮人」において千葉県の地域で、地区ごとに地区の住民が朝鮮人を殺していたことを初めて知りました。自警団の虐殺。殺したのに、大した罪にならなかったこと？記録、名簿も大して残っていないこと。この映画を見て、余計東京都の小池知事の言動は許せません。ヘイトにつながるとのこと 納得」などの感想が寄せられた。《Y》

告知板

@映画『原発をとめた裁判長 原発をとめる農民たち』上映会

日時 8/5(土) 10:30～. 14:30～ 1200円(前売り1000円)

会場 逸見ウエルシティ5階大学習室

主催 原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会 046-827-2713

@『新しい戦前にさせない』連続シンポジウム第5回

日時 8/11(金) 13:30～ 1000円

会場 文京区民センター第2会議室

講師 竹信三恵子、雨宮処凛、杉原浩司、古今亭菊千代、杉浦ひとみ、白石孝
「軍拡と『ゾンビ家制度』の罨一性差別大国(125位)・生活小国日本」

主催 共同テーブル

@第8回知ること未来が見える 戦争の加害パネル展 特集展示 関東大震災時朝鮮人虐殺

日時 8/26(土)～9/3(日) 10:00～19:00

会場 かながわ県民センター1階展示室

@慎蒼宇さん講演会

「関東大震災100年 朝鮮人虐殺と官民の植民地戦争経験」

日時 8/26(土) 17:30～

会場 かながわ県民センター2階ホール

主催 記憶の継承を進める神奈川の会 090-7405-4276

@安保3文書撤回!防衛予算増に反対する8.26神奈川集会

日時 8/26(土) 16:00～ 相模大野駅までデモ行進

会場 やまと公園(大和駅)

主催 基地撤去をめざす県央共闘等 macoyan@jcom.home.ne.jp

@朝鮮人虐殺100年神奈川追悼会

日時 9/2(土) 10:00～ 受付9:30

会場 久保山墓地 関東大震災殉難朝鮮人慰霊之碑前

主催 関東大震災時朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川実行委員会

@関東大震災時の朝鮮人虐殺100年追悼の記念イベント

日時 9/3(日) 14:30～ 開場14:15

会場 神奈川県地域労働文化会館AB会議室

講師 後藤 周 「流言・虐殺の事実を知り、考える」

主催 かながわ歴史教育を考える市民の会 090-8818-1431(高梨)

メールアドレスをご登録いただくと最新の集会の案内等を送ります。

このニュースも見ることができます。

「平和憲法を守る会ニュース」への投稿をお待ちしています。

下記まで、お送り下さい。 かながわ平和憲法を守る会事務局

FAX 045-662-6363 e-mail e-kaihou@nifty.com e-kaihou@ezweb.ne.jp